

平成 27 年度 2 学期始業式式辞

それぞれに充実した夏休みを過ごされ、こうして皆さんの元気な笑顔に接することを嬉しく思います。

さて今年の 2 月 28 日のこと、作家の松谷みよ子さんが 89 歳でお亡くなりになりました。松谷さんの事をあなた方にお話ししたかったのですが、なかなか機会が無く、今日になりました。「龍の子太郎」「モモちゃんとアカネちゃん」などたくさんの作品がありますが、今日は「わたしのいもうと」という絵本の紹介をします。その前に、朝日新聞のコラム欄のことに触れなければ話が続きません。

夏休みに入ってからすぐ、学校側がいじめによる自殺と認定したという報道が流れましたね。岩手県の矢巾町の中学 2 年生の男の子の自殺事件でした。平成 23 年 10 月大津市立中のイジメ事件以来『いじめ防止対策推進法』が施行されてもおお、いじめが原因で自殺に至るケースが跡を絶たないのです。

朝日新聞社は学校で広がるいじめ問題に関心を深め、『いじめている君へ』と名付けられたコラム欄を設け、各界で活躍の著名人に一筆啓上願う企画を続けています。多くは、自らのいじめられた経験を語り、いじめている側に気づきを促す文章になっています。

松谷さんも執筆されましたそうです。

いじめている君へ

作家 松谷みよ子

イソップ物語に、子どもにいじめられる池のカエルのお話があります。20 年程前、いじめで死を選んだ子のことを聞いたときにこの話を思い出し、たまたまなくなって詩を書きました。

『どうか石を投げるのをやめてくれ
君たちは遊びでも
わたしたちには いのち の問題なのだから
わたしはいつも
心のなかでさけぶのです
どうかやめて おねがいだから
わたしには いのち の問題なのだから』

そのころ、若い女性から手紙をもらいました。妹さんのことがつづられていました。妹さんは同級生からいじめを受けて深い心の傷を負いこんなメモを書いていました。「私をいじめた人たちは、もう私を忘れてしまったでしょうね」

涙がこみあげました。私にもかつて、寄ってたかって周囲の人から自分の生きてきた根っこを否定された経験があったからです。でも、彼らはこのことを案外すぐ忘れてしまっていました。

私の痛みはずっと消えなかったのです。ずいぶんたってから彼らと話をする機会があって、つらい思いをさせたなあと分かってもらえたとき、やっと少し救われました。

いじめている子に何か感じて欲しくて、「わたしのいもうと」という作品を書きました。転校していじめられ、学校へ行けなくなり、ツルを折り続ける女の子。いじめた同級生がおかまいなしに毎日遊んでいるのに、ひっそりと死んでしまいます。「あそびたかったのに、べんきょうしたかったのに」と書き残して。

相手がこんなに苦しんでいることにどうか気づいてください。そのことが、いじめられている子にとって、少しでも救いになるのです。

2006年12月5日 朝日新聞に掲載

松谷さんの「わたしのいもうと」という作品を読みたくなりました。図書室で手にとって読みましょう。すばらしい絵本です。泣き出してしまうかもしれません。今日のこの場では、絵本の最後に載った、わたしのいもうとの手紙文だけ読みます。心を残して自らのちを絶ついもうとの手紙です。

わたしを いじめたひとたちは
もう わたしを
わすれてしまった でしょうね
あそびたかったのに
べんきょう したかったのに

もう誰にもこんな手紙をかかせないために早く助け合いましょう。”いじめ”は残念ながら人間社会には起きてしまうことです。とくに未熟な少年少女時代には感情のコントロールがうまく働きません。しかし、いち早く気づいて互いに助け合い、まわりの大人たちの力を借りて小さい間に消すことができるのです。これには、おかしいなと感じたその時に知らせることが鍵となるのです。常に報告しあえる学園生活に、皆さん協力してくださいね。お願いをして式辞とします。

平成27年(2015) 8月25日
学校長 安井 大悟